



あらかわ区報 Jr.

ArakawaKuhō Junior

平成28年 7/19

発行 荒川区●23,000部発行
〒116-8501 東京都荒川区荒川2-2-3 ☎(3802)3111



災害への備えは、まず知ることが第一歩 水害対策の仕組みって どうなってるの？



荒川区を含む、東京都の東部は、隅田川、荒川、江戸川など多くの河川が流れ、昔から洪水の多い地域でした。水害から人々の暮らしを守るため、荒川放水路（現在の荒川）や岩淵水門が作られ、今も洪水を防ぐためのさまざまな工事や対策が行われています。今号では、隅田川の氾らんを防ぎ、街を洪水から守っている岩淵水門を中心に、水害への備えについて紹介します。

岩淵水門

荒川から隅田川に流れ込む水量を調節する水門です。大雨で荒川の水位が上昇したときにゲートを閉め、隅田川の氾らんを防ぎます。大正13年に最初の赤い水門が完成し、現在は、より大きな新しい青い水門が使用されています。



荒川放水路

荒川の岩淵水門付近から河口までの下流は、洪水を防ぐために人工的に作られた川で、荒川放水路と呼ばれています。幅約500メートル、全長22キロメートルの大きな人工河川は、19年がかりの難しい工事の末、昭和5年に完成しました。



提供：国土交通省 荒川下流河川事務所



▲荒川の水位を観測する施設です。観測データをもとに水門の操作を行っています

現在の岩淵水門ができてから、一度も水害が発生しておらんじゃ



▲今回のジュニア記者は、第五中学校で防災部に所属する（左から）3年生 菊川仁人くん、齋藤すみれさん、室田晟吾くん、2年生 三木杏珠さん

- 区内には、川の水面より低くなっている場所があるんじゃ。
- このため、隅田川や荒川が氾らんすると、広い範囲が水に浸かってしまう可能性がある。こうした水害を防ぐために、国では、荒川放水路や岩淵水門を整備しておく。ここで荒川から隅田川に流れ込む水量を調整し、流域で氾らんが起きないように監視するんじゃよ。
- 区では、隅田川や荒川の堤防が決壊した場合の浸水予測や注意点が分かる「洪水ハザードマップ」を公開して注意を促しておくぞ。
- 家や学校など、自分たちに身近な地域がどうなっているかを知って、みんなも日頃から水害に備えておくことが大切じゃぞ。

問合せ 国土交通省 荒川下流河川事務所 ☎(3902) 2311



あらかわ区報 Jr. は荒川区ホームページでご覧になれます。
<https://www.city.arakawa.tokyo.jp/kusei/koho/koho/arakawakuhojr/index.html>

次は9月に発行する予定です